

こんな頃もありましたね～!

この人はだれ?

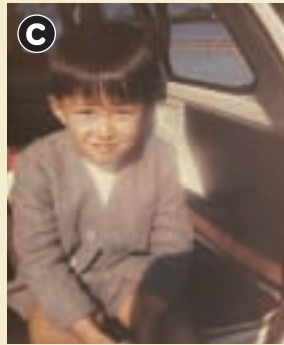
今、浜松JCで活躍している人達です。
さて私は誰でしょう?



A



B



C



D

答えはホームページで確認してください。
JC手帳を片手にぜひ見比べてみてください。見る目が変わるかも…?

担当/竹内 一

クロスワードパズル

●ヨコのカギ

- おぼれるものがつかみす
- シャーロック・ホームズや明智小五郎や
- 柔道では2回で注意に
- ウシカモシカともいうウシ科のなかま
- しっかりと手に入れました
- そろばん電卓ですばやくやるの
- おみくじでしばしば「来らず」
- 15世紀最後の年に天下を分けた
- 動物なかよし行為
- テーブルクロスやカーテンや
- 渡り鳥のとるルート
- お酒とともに欲しいです
- でっばでっばと鳴きます
- 南米河川の剣呑なやつ
- 一時だけでも13:00ではない
- グルメはおそらくすぐれています
- 火山温泉でよく見るS
- 麴やペニシリンのように役立つことも
- おとしよりにはたくさんよって

●タテのカギ

- ぼくでもなければオレでもない
- かつては世帯じみたおのの代名詞に
- 地図には描いておくと目印に
- びんぼうゆすりやえんぴつまわしや
- うどんやそばの自慢要素
- 向けられたくはありません
- 柔道剣道華道茶道などでは重んじる
- 釣果の収納場所
- 内陸でも水上運行可能
- 甘味のほかに化学調味料の原料にも
- 乙女座でもっとも明るいのです
- たいていはせまいです
- 役職ありません
- 船は大海で人は世間でもまれます
- コンピュータでの単位なB
- ちっちゃいのです
- アンディ・フグの得意技でした
- つかまれたらおぼれちゃう
- ブルー・海で子供が使うもの

のマスに文字を並べ換えて
答えの言葉を作ってください。

ヒント どんな味?

1	7		14		20	24	28	
2		11			21			32
3				18				
	8		15			25	29	
4			16		22		30	
5		12		19		26		
		13	17		27			33
6	9			23				
	10						31	

答えはホームページにて

作成/竹内 一

～(社)浜松青年会議所ホームページのご案内～

みなさん暑い中でのJC活動おつかれさまです。
6、7月とスケジュールが目白押しだったので活動報告もすいぶん増えています。
ぜひご覧になってください。
メンバーページでは、専務のつぶやきコーナーが始まりました。後藤専務理事の愛くるしい日記を堪能してください。はたして続きがあるのかどうか楽しみです。
また、鈴木玄会員向上室長が気合いを入れて作ったサッカー倶楽部のページもラブリーです。これを読んであなたもサッカー倶楽部の一員の気分で夕日に向かって走りましょう。

<http://www.hamamatsujc.jp/>

担当/小池 宏明

第4号



2004年度
(社)浜松青年会議所 スローガン

夢への情熱で改新しよう!
自身を、組織を、そして地域を

JC広報magazine

Dreamer



2004年8月1日発行 (年6回発行予定)

発行/社団法人浜松青年会議所

編集/広報委員会

<http://www.hamamatsujc.jp/>

大成功! サマーコンファレンス2004

サマーコンファレンス(以後サマコン)が横浜開催となって10回目という大きな節目に副委員長として出向をさせていただきました。2004年度日本JC米谷会頭が掲げる「スローソサエティの実現」を国家ビジョンとし全国に発信する大会として、今までのサマコンとは違う設えを求められてきたこともあり、これから使われるであろうけれど、いまひとつ分かりにくい「スロー」という概念を事業計画に盛り込んで、しかも参加する人たちに理解してもらうということはとても難しく、たくさんの壁にもぶつかりました。その半面で、サマコンという日本JCの三大大会(京都会議、サマコン、全国大会)の一つである継続事業を大きく変化させるチャンスをもたらえたことは幸運なことだという自覚もありました。

「FUN to TRY Slow Society! ～スローソサエティを楽しもう～」を大会テーマとして、パシフィコではJCメンバーの従来通りの会議やセミナーを行い、横浜港大さん橋国際客船ターミナルとクイーンズスクエアの2会場でスローソサエティを体感できる場としましたが、私の小委員会はださん橋会場の「スロースペース」を中心にスローカフェ、スローハウス、スローブースの展示などを多面的に担当しました。特筆すべきは、その企画から運営に至るまで「スロイーベントシステム」というJC事業のビジネスモデル的なものを策定し、サマコンにおいて実践したこと(知りたい方は伊藤賢次君に聞けば詳しく説明してくれます)。またクイーンズではFM横浜の公開放送を横浜JCとの協働で企画運営したことは貴重な体験となりました。

全ては「スローソサエティの概念に合うか」を自問自答しながらの9ヶ月でしたが、浜松から出向してくれた7人の楽しい仲間たちに支えられ、励まされ、まさしくこの出向そのものが「つながりに生かされている社会(＝スローソサエティ)」を理解することになるのだと実感しました。ご協力、ご声援どうもありがとうございました! (サマーコンファレンス運営特別委員会 副委員長 小野晃司)



サマーコンファレンス2004では、サマーコンファレンス運営特別委員会の小野副委員長やメディアコミュニケーション委員会の内山副委員長をはじめ、浜松JCからも多くのメンバーが活躍されていました。メディアコミュニケーション委員会が作成したホームページには浜松JCのメンバーが書いた記事もアップされています。こちらもぜひご覧ください。 <http://www.jaycee.or.jp/2004sumcon/index.htm>

田原育宏君（日本青年会議所副会頭）と行く

「世界の国からこんにちは」番外編

いつもJC活動ありがとうございます、専務理事の後藤です。

ホームページ上の企画 ～田原育宏君と行く「世界の国からこんにちは」～
の番外編という事で今回は、6月24日・25日にJC発祥の地セントルイスに
行った時の話をドリーマーで少し紹介したいと思います。

JCI会館外観

6月22日13:05（日本時間）

田原顧問＆小杉委員長は成田からフライト。私は同じ飛行機がとれず、名古屋からデトロイト経由で田原顧問を追っかけます。

飛行機に乗って前後左右の席が空いてる…「おおラッキー、寝れるじゃん！」と思ったのも束の間、見るからに田舎のアメリカ人の団体っばいのが入ってきた…「こっち来るな、こっち来るな…」がーん、撃沈…。しかも両サイドおデブ…しかも爆睡して起きない…前通れないし、トイレ行けんじゃん…後でたたき起こしてやる。この状態で12時間はつらい…。

6月22日11:50（デトロイト時間）

あ～やっと着いた、トランジットに3時間…長い。軽く食事して、ぼーとしてると、なんか見たことある日本人が歩いてくる。「結構日本人いるな～、誰だっけ？見たことあるな～…ゲッ、会頭じゃん！」まさかこんな所歩いてるなんて思わないし、頭ボケボケの為、理解するのに時間がかかってしまった。慌てて挨拶したので、サングラスは付けっぱなしだわ、失礼してしまいました…すみませんでした。

6月22日16:30（セントルイス時間）

王子先輩（J C I 会頭経験者）、会頭、会頭補佐、J C I 関係委員会とともにホテルへ。チェックインして、田原顧問がJ C I 役員とステーキハウスで食事をするとのことなので、そちらへ合流。加来J C I オフィシャルフォトグラファー、奥本J C I 法制顧問、廣江J C I 会頭常任補佐と食事。初めて会うJ C I 関係者は皆さん気さくで優しいかたばかりでした。それにしてもステーキでかい…なんたって小杉委員長が食べ切れないんだから、みんなで気持ち悪くなってしまいました。その後、ジャパナイトの下見がてらダウントウンへ…その後は省略。

6月23日（セントルイス）

J C I 会館開所式って訳すのが正しいのかどうかわからないけど、エジソン・コダマ事務総長代理の司会で式が始まりました。フェルナンドJ C I 会頭の挨拶、ジョン・ネイション市長の祝辞、ソニー・ユー J C I のドンの挨拶と進み、テープカットの後、中の見学となりました。見学といっても、我々は式の前に既に中を見させてもらっちゃってましたけどね…。J C I 会頭の部屋とか、初代会頭の肖像画とか飾ってあって歴史を感じました。後、行くところなのですが、会館は思ったよりこじんまりしてるし、結構田舎にあり、こんな田舎からJ C が始まったんだ…って感じです。

そして、夜は福岡主催のパーティです。2000年度会頭上島先輩もみえられ、日本料理屋でJ C I 役員を招いて、福岡世界会議のP R と交流を行いました。J C I 役員も満足げに帰られ、日本チームでジャパナイト？打上？でこの日は終わりです。



JC創始者の肖像画をバックに浜松チーム



寄付すると煉瓦に名前が刻まれる。名前が刻まれた煉瓦を前に、田原顧問



福岡大会PR中



JCI会館受付嬢。実物はもっとかわいい！

文／専務理事 後藤 明

事業案内



HAMAMATSU JC
広報 magazine

Dreamer

ごあんない

8月～9月の開催事業予定

日 時	場 所	時 間
8月 5日(木)	第2回定時総会	グランドホテル浜松「孔雀の間」
8月22日(日)	「スローフード」推進事業（収穫・調理）	大塚町農地
8月28日(土)	沼津青年会議所50周年	沼津東急ホテル
8月29日(日)	会員例会（家族例会）	ロテルド・寸座（旧ヤマハリゾート寸座ビラ）
9月 3日(金)	「つながる『夢』浜松JCスロースクール」全体準備会議	可美公園総合センター 第1・2研修室
9月 5日(日)	ブロック会員大会	磐田市かぶと塚公園陸上競技場
9月12日(日)	移動オーケストラ	浜松市立高等学校 講堂
9月18日(土)	全体事業例会「つながる『夢』浜松JCスロースクール」	アクトシティ他
9月26日(日)	天竜青年会議所40周年	天竜自然体験センター「湖畔の家」
9月30日(木)～	全国大会（水戸）	水戸市内各所

PICK UP

つながる『夢』浜松JCスロースクール 9月18日(土)

今年度、全体事業第2弾「つながる『夢』浜松J C スロースクール」が、いよいよ迫ってまいりました。実行委員長を務めさせていただきます、鈴木 真です。

この事業は企画段階から各委員会が参加して「スロー」をテーマに、それぞれの委員会の特色を生かしながら、浜松市民に向けて行われます。そして、N P O ・市民と協働しながら、これからの浜松に大切な「人・まち・自然」を思う私達の「夢」をつなげる為に、アクトシティーを舞台に「つながる『夢』浜松J C スロースクール」を9月18日(土)に開校致します。

「ちょっと縮めて、少し広げて」
最近、スローと言う言葉をよく耳にします。皆さんは、「スロー」をどのように捉えていますか？私は、忙しすぎる現代社会において、「人と人・まち・自然」の距離が離れてしまっていると感じます。だからこそ、その距離をちょっと縮める為には、一人ひとりが持っている「やさしさ」を様々な世代の人と交流しながら「人・まち・自然」に少し広げてみる事が「スロー」の入口だと考えます。

実行委員会では各委員会のご協力のもと9月18日に向けて、市民がアクトの各会場で楽しく交流出来る場を数多く作り、「スロー」の価値観を感じとってもらえるよう企画しておりますので、皆様方にはご家族・友人・知人・恋人にお声を掛けていただいて、当日お誘い下さい。
全体事業「つながる『夢』浜松J C スロースクール」どうぞご期待下さい。

文／つながる『夢』浜松JCスロースクール 実行委員長 鈴木 真



みなさんよろしくお願ひします！

新入会員紹介

(7月15日入会 後期入会)

氏 名	生年月日	勤務先
木 村 久 良	1975年12月12日	エフェクト
佐々木 章 光	1970年 5月29日	(有)高丘シルク
佐々木 孝 文	1977年 1月 2日	(有)アーネストトレーディング
鈴木 大 介	1975年 7月12日	(株)鈴木組
鈴木 基 義	1973年11月 8日	(有)浜松総合代理社
泰 澤 友 和	1975年11月 3日	静岡エフエム放送(株)

氏 名	生年月日	勤務先
高 垣 展 広	1971年10月 6日	高垣工務所
中村 竜 太 郎	1977年 2月 4日	遠州樹脂工業(株)
永 田 真 也	1977年 8月 1日	東海機材(株)
名 倉 大 介	1979年 9月 8日	(株)名工ハウス
平 山 真 弓	1974年11月25日	(株)平山商店
山 岸 博 臣	1970年 6月 5日	(株)日野会計

★新入会員のコメントはホームページをご覧ください

身近で見つけた『スローライフ』 体験してきました ～奥山方広寺～



今回、私たち広報委員会は、浜松近郊で身近にある『スローライフ』を実際に体験しようということになり、皆で考えスローフードという観点から、精進料理、そして日頃の街の暮らしではなく、非日常的な所でスローライフを体験することになりました。今回の企画の選定の中、日頃私は職業柄和尚さんの話を聞くことが多く、こうした貴重なお話をメンバー・その他の皆さんに聞いて頂こうと、奥山方広寺体験ツアーを企画いたしました。研修当日は、座禅・法話・清掃・精進料理を体験し、その中で私は座禅の際、警策棒で背中を叩いて頂きましたが、翌日少し背中が痛い事に気がつきました。皆さんも日常の生活からちょっと離れた山間の中、このような形での『スローライフ』を子供たちと一緒に体験してみてもはどうでしょう。余談ですが、私以外のメンバー4人は帰りに竜ヶ岩洞を見学し、ジェラードを食べて帰ってきたそうです。

文／竹内 一

●奥山方広寺 引佐郡引佐町奥山1577-1
TEL.(053)543-0003 FAX.(053)543-0249 <http://www.houkouji.or.jp>

法話

題名：人生の経営学 ～スローライフ～

臨済宗方広寺教学部長の湧出宜雄（わきで ぎゆう）和尚に人生の経営学～スローライフ～についての法話をしていただきました。当日は梅雨の合間の晴れ間で朝から絶好の天候に恵まれました。小鳥のさえずりが聞こえる心地良い空間の中、大広間でしかも我々広報委員会メンバーたった5名の為に研修は行なわれました。少し贅沢とも言える状況でしたが、スローライフを肌で感じられる貴重な体験だけに、日常生活を少し離れて自己を見つめ直すスローで有意義な時間を過ごせました。その法話の中から抜粋して紹介します。

和尚の法話は、「照顧脚下（しょうこきゃっか）」の言葉の説明に始まりました。時間ギリギリに駆け込んだこともあり、誰一人、入り口でこの立て看板に気づいたものはいませんでした。「足元を揃えることは、心を揃えることだ」と言われ、身が引き締まりました。スローライフを学びに来たのに、時間にも心にも余裕のないスタートとなってしまいました（反省）。「経営」とはもともと仏教用語で、「経」は経て糸（たていと）の意味だそうです。お坊さんが持つ数珠の玉を繋ぎ合わせているのも経て糸です。数珠の中にある経て糸は目には見えないものです。経て糸には「目に見えないもの」という意味もあるのです。人間で目に見えないものとはすなわち「心」です。経営とはお金を営むのではなく、心を営むことなのです。その心こそがスローライフの根本です。

人間が幸せになるには3つの柱が必要です。1・体が丈夫なこと。2・生活が安定していること。3・心が安定していること。スローライフには心が安定していることが必要です。そして愚直（ぐちょく）つまり、自分が信じたものを貫くことも大切です。昔こんな話がありました。ある旅人が馬車に乗って「あとのくらいかかりますか？」と識者に尋ねました。「ゆっくり行けば一時間で行けるが、急いで行けば一日かかる」と言われたそうです。…意味がわかりますか？つまり昔の道は状態が悪く、急いで行けば馬車の車軸が折れてしまうかもしれない。それを修理するのに一日はかかってしまうだろう。ゆっくりと慎重に行けば、事故もなく一時間で行くことができるだろうということです。

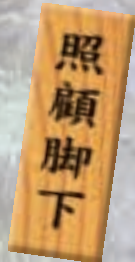
我々を取り巻く社会はFASTの連続なのかもしれませんが。確実に目的地に着くためには、急いでモノや機械に頼るのではなく、地道に慎重に、自分の足で一歩一歩確かめながら進む努力が必要なのかもしれません。

この1時間に渡る法話には目からウロコの部分が非常にありました。常々「幸せとは何だろう？」と深く考える余裕もなく、考えようとせず日常生活に追われる毎日です。そんな機会を与えられたこと自体が自分にとってはスローな一面なのかもしれません。幸せ＝与えられるもの、求めるもの、ということです。つまり求めるものが多ければ多いほど幸せは少なくなってしまうのです。欲張らず毎日の小さな幸せに感謝しながら、身近にあるスローな体験を試みるのもいいものだな～と思いました。

文／山下 里栄子



有意義な法話ありがとうございました



座禅



ムシムシ

気持ちいい

喝

「心を無にする時間と空間」

法話の後は座禅を体験しました。私は足を自分の腿の上に組むことすら大変で、心構え等を指導している間にも足が痛くて大変でした。

腹式呼吸の仕方や心を無にするなどの方法を一通り聞いていざ座禅！足はしびれてつらかったのですが、仕事や生活のことなどを常に考えている日常からすこし離れて、じっとしていることなど普段では味わえない時間と空間が楽しくすら感じました。

そして、肩を警策棒で叩いて気合いをいれてもらいます。最初は痛いのですが2回3回と叩いてもらおうと痛みはなくなり邪念が消えて禅に集中させてもらえる手助けとなっているように感じてきました。

実際行った座禅は15分程でしたが、とても貴重な時間だと感じました。足が苦しくなければもっとやっていたかったですね。でもこれを毎日何時間もやるとしたら耐えられないでしょうねー。



無視無視!!

文／小池 宏明

掃除

「自分の心を掃除する」

研修の3番目に行った掃除では、本堂全般を任せられました。広い廊下を見て童心に戻り皆アニメの休さんの一場面を思い出しました。廊下を雑巾で駆け巡るシーン！！副委員長が実際にやってみるときつい！！しかし和尚さんに怒られる！！掃除は木目にそって腰をしっかりと入れるとの指導がありました。こちらのほうがもっときつい！！広い廊下と多くの戸を雑巾で水拭き、すぐに真っ黒になる雑巾を見て当初は大変だなあと感じていた部分が、そのうちに無心で行うようになっていました。掃除は誰かの為にするわけでもなく、誰かに言われてやるものでもなく、こういう素直な気持ちで行うことは本当に気持ちのいいものだと感じました。掃除を終えたスタッフの顔は、写真を見てもわかっていただけるようにすがすがしい顔に変わっていました。また自然の中、外界から少し離れただけでこんなに気持ちが洗われるものなのかなあと思いました。そして日々の運動不足をも痛感した1日でした。



木目に沿って腰を入れて



ひたすら無心で



掃除を終えてホッ

文／嶋津 昌弘

食事



いただきます～す



「いのちを頂くありがたさ」

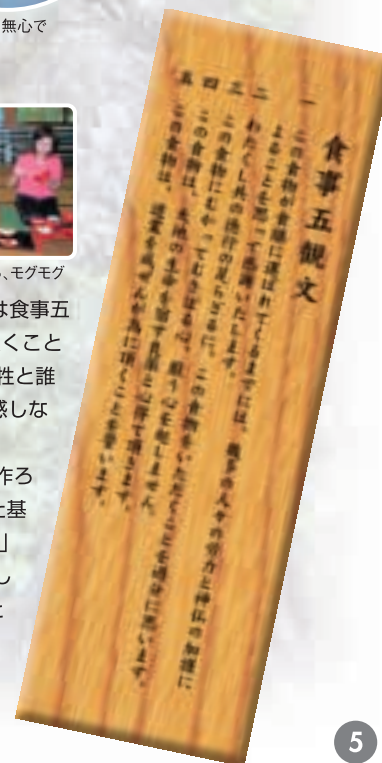
今回私たちがいただいた食事は精進料理。お肉や魚を一切使用しないものだが、栄養のバランスをとるために品数も多く、煮物などは野菜からとったダシがよく出ていて、調理された方の優しい細やかな心遣いが感じられるあたたかい食事でした。食事の前には食事五観を説いていただき「いのちあるものを食することは、命そのものを頂くことと同じである」ということや、「すべてはあたり前ではなく、何かの犠牲と誰かの労力によって世界は支えられ、私たちは生かされている」ことを実感しながらの食事となりました。

食事を作る人は食べる人を想いながら、新鮮な食材を選んだりおいしく作ろうと心をこめ、食べる人は食物や作り手に感謝しながら食べる。こうした基本的な心を忘れてしまいがちな毎日を少し反省し、「おいしさ・まずさ」を見分けられるグルメな舌を持つよりも、まずはどんな食事にも「おいしい・ありがたい」と感じられる心を持つ方が幸せなのかもしれない…と思いました。

文／大石 江理



ひたすら食べる、モグモグ



あの人は誰？ ～浜松JCの功労者達～ 第4回 塩谷 泉 先輩

— 浜松JCに在籍、活動しての思い出や役に立っていることなどをインタビューさせていただきました —



PROFILE 昭和31年2月7日生まれ(48歳)
株式会社新遠州倉庫代表取締役
82年入会、96年卒業

「私がプロ長の年は当たり年でした。(笑)」

私はいい時代にJC活動をやらせてもらいました。今のような経済情勢で活動しているみんなは大変ですね。95年に浜松JCに静岡ブロック協議会会長(以下プロ長)が回ってくるときに私に白羽の矢が立って、94年理事長、95年プロ長と、やらせてもらいました。最終年(96年)には当面回って来ないといわれていた日本JCの役員を監事としてやらせていただくことができました。

95年というと、グローバ尔特レーニングスクール(GTS)が日本JC主管から東海地区協議会主管に変わるところに加えて阪神淡路大震災が起きたので、とても特殊な年でした。震災で当時の日本JC会頭の息さんが亡くなったのもあり、日本中のJCが救済に乗り出しました。そんなときにでもなんとか仲間を支えられてやっていくことができました。静岡は東海地震の懸念から防災の意識が他地域に比べて高いので、早い段階から取り組むことが出来ました。その当時ブロックでやろうとしていたペーパーレスの情報伝達手段として、PCによるネット連絡を取り入れました。それは全国でも早い導入で、現地状況などを素早く伝達することに役立ちました。そして各LOM(各青年会議所)の割当や当番などを決めて、震災地へと赴きました。決議などを後回しにしてしまいましたが、ブロック協議会の当時のメンバーも緊急で行った会員会議所会議でもほとんどの各LOM理事長がやって来てその素早い対応を後押ししてくれました。

すでに計画されていたGTSなどよりも、「こういうときこそ団結してボランティアするべきだ」という認識が全国的に認められたときにJCのすばらしさを感じました。そのときに一緒に活動した仲間は結びつきが強く、いまでも当時のプロ長仲間とは月一回飲んですよ(笑)

「これでも一時期は辞めたいと思う時期もありました。」

ちょうど私は、後押しされてプロ長をやることができたけれど、辞めたいと思う時期もありましたよ。でもそれを乗り越えることができました。プロ長になってやったことのひとつとしてブロック会員大会の記念事業に25LOM各1台ずつノートパソコンを買ったんですよ。震災のことが評価されることが多いんですけど、そういう先駆けをしたことも評価してほしいですね(笑)

出向して学ぶことも多いですよ。最初に出会ったときはなんでもなくとも後で会ったら立派になってたり。そういう人との出会いも楽しいし、いろいろな場所で知り合った人と時間を共有して仲間になって付き合いが続いていく。そういうつながっていく付き合いができますね。

女性が入会し始めたのもちょうどその頃からですね。それまでは女性を入会させるのに反対的な人が多かった。でもこれからはそういう時代じゃない。ちょうど変化の時代でもあったんですね。とうかい号の団長を女性が務めたのもその頃でした。

「便利がいいとは限らない。」

私が幹事やってたときは携帯もFAXも無かったから連絡するのが大変でした。会社に電話するしかなかったのですが、それがかえって、社員のみんなにも社長はJCでなにやっているんだらうというのが少し垣間見えてよかったと思うんです。今は直接メールや携帯に連絡が来て、社員になにやっているかがわからない。少しはそういうのが社員に見えてもいいのでは、と思います。

会社からJCが見えなくなっている。これは情報手段が便利になった弊害だと思います。なにもかも素早く便利がいいというわけではない。だからFAXや携帯があってもまず会社に電話をしてあげる、などしてますよ。皆さんも試されてみてはいかがですか？

「一個人として、一人の親として楽しんでます。」

今は、いろいろな役からはずれて参加することを楽しんでいます。今までもPTAや後援会などの役がまわってきましたが、そういうものも経験したからこそ、一人の親として子供の行事を参観することとても楽しいと思っています。

「ただで人を動かすことを勉強する。それがJC。」

私がプロ長のときに、直前(前年度)プロ長をアカデミー委員長にして各LOMから人を集めてブロック研修をやりました。300人以上集まり、その人数でいろいろ仲間と、一緒に経験することで絆を深めてもらいました。多くの仲間と多くの時間を過ごすことがいいと思ったんです。

学生ときの仲間はだんだん考え方も変わっていくが、JCの仲間はみんな会社で同じような立場で同じような悩みを持っている人が多い。業者と違って利害もない。だからたくさん一緒に過ごして、一緒に飲んで、腹を割って話せるようになる。そうやって仲間を増やすのが楽しい。

JCって究極のボランティアだと思うんですよ。業界の集まりとは違う。そんな中であることを成すために人に動いてもらう。会社組織のような利害関係がない世界で、自分の魅力で人に動いてもらう。これを身につけることがJCの最大の魅力だと思うんです。つまり委員長などを経験してこれを学び、40歳までに習得する。だからJCには卒業がある。そう思います。

取材模様はホームページをご覧ください (文/小池 宏明)

広報委員会がおすすめするホームページサイト

こよみのページ
http://koyomi.vis.ne.jp/



暦は、複雑な天体の運行、季節の推移をいかにして予測し、そうした自然の事物と折り合ってゆくかを考え続けた人々の営みの集積といった意味があります。それにどのような意味があったか、どのようにして暦が変化してきたか、そういったことを正しく知ってもらうという意味で、「イメージ先行」でない暦の話を知って頂きたいと思って、このようなサイトを開いております。(作者談)

暦と暦に関連する情報満載のサイトです。見応えがあるので、じっくりと何度も訪れてみてはいかがでしょうか？



推薦/大石 江理

子育てまめ知識

こちらのコーナーでは子どもの心理学に関するちょっとしたまめ知識をご紹介します。



しつけと課題意識

しつけはおよそ幼児期頃から本格的に始まりです。子どもは、社会生活にうまく適応するために、社会生活に共通する行動様式や社会的規範を身につけていきます。しつけは、子どもが生活習慣や善悪の基準などを習得することを目標として行われる両親や家族による働きかけです。

幼児は、当初はなぜそのような働きかけがなされるのか全く理解できず、ただおとなの働きかけに同調しているにすぎません。しかし、要求される行動の型やおとなの示した善悪の基準を身につけていくことによって、社会生活にうまく適応していくことが可能になっていきます。つまり、幼児は彼らのもつ文化への適応としての意味をもつ一方、幼児に自ら支配しうる生活の領域をもたせ彼らの自立を促していくのです。

一般に、3歳前後から自分の主張を通そうとする現象が顕著になります。それまでのようにおとなのいいなりにならず、自分の思いどおりにならないとかんしゃくを起して反抗するようになります。このような反抗現象は、正常な幼児に比較的通通してみられ、自己意識つまり自分という気持ち(自我)が芽生えてきたことによると考えられています(第一反抗期)。拒否や反抗はげしくなると、両親はとまどい、腹をたてて、ともすると頭から押さえこもうとしてしまいがちです。でも、この時期に、親が子どもの自己意識を適度に満足させるように応答し対応してやることで、その子どもの社会的行動を発達させる上で重要な意味をもちます。つまり、自己主張が合理的に行えるという経験をもつことによって、幼児は自分勝手なことばかりいわないで、一応いわれたことをいわれたとおりにやろうとする課題意識をもつようになるのです。そして、課題意識ができてくると、拒否や反抗は目立って少なくなり、指示された課題をやりとげ、おとなの是非を得ようとする社会的態度がでてくるようになります。自分が周囲から何を期待されているかがわかり、同時に社会的に望ましい形で自己を表現することが自分に対しても満足をもたらすということが理解できるようになっていきます。課題意識は、幼児がその後の社会生活において、さらに約束や社会的規範に従うという訓練を受け身につけていく上で重要な役割を果たすと考えられています。[児童心理学]より



文/大石 江理

HAMAMATSU JC
広報 magazine

Dreamer



編集後記

7月は静岡JCの50周年式典から始まり、東海フォーラムとJC活動でスケジュールがいっぱいでした。去年「卒忘」で担当になった先輩から「何もやらずに文句を言うな!! まずやってみなさい」との言葉をお酒の席で何度もリピートされました。この方の担当になってから少しだけ考え方が変わってよかったと思っています。ちょっとだけ無理をしたら去年よりJC活動に参加していました。(まだまだ出席率は悪いのですが...) 少しずつ色々な委員会を見て、委員長を見て、こんなにがんばっている人達が浜松にすることをすごいなぁと、そして心強いなぁと感じています。今回の取材で方広寺へ春先には開幕前の花博(まだプライベートでは行っていません。券がもったいない!!) 出向先の東海ネットワークでは自衛隊の体験入隊や愛知万博の会場視察などなど、色々なことを体験させてもらいました。JCに入会して1年と少しが経ちました。委員会や例会に出席できるように自分の仕事のやり方も変えました。なにも変わらなかった今までとはやっぱり違った1年だったと感じるようになった今日この頃です。

広報委員会 幹事 嶋津 昌弘

【2004 広報委員会編集スタッフ】

広報委員長 山下 里栄子
副委員長 小池 宏明 竹内 一
幹事 大石 江理 嶋津 昌弘
委員 江間 徹士 折山 哲康
河村 浩利 久保田 賢

〒432-8036
浜松市東伊場1-3-1 グランドホテル浜松 内
社団法人 浜松青年会議所

tel.053-454-6721
fax.053-455-3563

URL
http://www.hamamatsujc.jp/

E-mail
room@hamamatsujc.jp